

63 期生

2 年生学年だより



豊中市立第五中学校 2016 年 3 月 16 日(水) No.42

3 月 14 日(月) 第 62 回卒業式でした

1 年生からは「未来へはばたく鳥の屏風」、2 年生からは「お祝いの花のステンドグラス」、それぞれ感謝の気持ちを表した飾りに彩られ、整えられた体育館。みなさん 2 年生や保護者の方々、来賓の方々、先生たちに見送られ、3 年生が卒業しました。

起立や礼、送る言葉や送る歌はこれまでの練習通りに行うことができていましたし、卒業式が終わった後の最後の片付けも短時間でテキパキと動いてくれました。みなさんのおかげで無事に卒業式を終えることができました。



朝早くから集合し、練習をしていました。放送の係の私たち、送る言葉代表者の二人です。
ありがとうございました。





来年度、みなさんが座る場所はみなさんから見て反対側、舞台の前になります。卒業証書の授与、卒業の言葉、そして最後の卒業の歌。今回の卒業式、在校生代表として参加しましたが、みなさんはどう感じましたか？
本当の意味で仲間のことを考え、仲間とともに卒業するということがどういうことなのか、自分達が3年生になったときをイメージし、考えていきましょう。

～62期生・卒業の言葉～ 一部ですが載せます。

◆夢バトン◆

夢バトン、それは五中が大切にしてきた「はみごのないまち・学校づくり」に向けての合言葉です。この3年間、様々な学習を通して、人として大切なことを学んできました。3年生最後の聞き取り学習では、こんなメッセージが心に残りました。

「いじめや差別にあったとき、自分ならどうするかをいつも心の中で準備しておかなければならない。」

『「生きあう」とは『こだまのように心が響きあうこと』つまり、人と人は対等な関係であること。』

「人は1人ではない。必ず支えてくれる仲間がいる。」

◆仲間への思い◆

最後に、62期生から仲間への思いを伝えたいと思います。

「これからも、優しく仲間思いのみんなでいてほしい。」

「これから大人になっても、中学校生活の、笑いあったり、ぶつかり合ったりした思い出を忘れないでほしい。」

「いじめ、差別、はみごを決してしない人になってほしい。」

私達は、3年間で築き、創り上げてきたものをこれからもずっと心において一歩ずつ進んでいきます。

